

聖母の被昇天

2010.8.15

ルカ 1・39-56

今日は聖母の被昇天の祭日、大祝日です。今年はこの祭日が主日に当たっていますので、主日の9時半のミサを中心に、聖母の祭日をお祝いすることにいたしました。それで、いつもの年のように夜のルルドの前のローソク行列がなくて、物足りなくお感じになる方もいらっしゃるかも知れません。その分、心を込めてこの主日に聖母の被昇天のミサをおささげしたいと思います。典礼的に言えば、年間のすべての主日のミサは、私たちの日々の中で、主イエス・キリストの復活を祝い、主の復活によって私たちにもたらされた、大いなる恵みに感謝するミサです。主イエス・キリストによってもたらされた大いなる恵みとは、主イエス・キリストを救い主と信じ、そのみあとに従って生きる者たちに約束されている、十字架の死を超えて復活された主イエス・キリストの復活のいのちに与る希望です。この世の苦しみの多い生活の中で、年間のすべての主日ごとに、主イエス・キリストへの信仰によって与えられているこの希望を新たにするために、主の十字架の死と復活を記念するミサを私たちはささげ続けます。

今日祝う聖母の被昇天の祭日は、そのような私たちの、主イエス・キリストの復活のいのちに与る信仰と希望を確かなものとし、強めてくれます。聖母マリアの被昇天の祭日が8月15日に全世界の教会で祝われるようになったのは、第二次世界大戦の後、教皇ピオ12世によって、聖母の被昇天が全世界のカトリック信者にとって、信じるべき信仰の教えとして宣言されてからのことです。けれども、聖母マリアがすべての信じる者たちの母であり、聖母マリアはそのおん子イエスとともに、私たちの母として天の御父の栄光の中においてくださるという信仰は、古くからの教会の信仰の伝統です。

聖母マリアの被昇天は、聖母の無原罪のおん宿りの信仰の教えとともに、主イエス・キリストの母として、神から特別に与えられた聖母の特権というふうに説明されます。それは、今日の福音の聖母のマニフィカトの賛歌の中で、聖母ご自身の歌われているように、あるいは、私たちになじみ深い、「恵みあふれる」の祈りにあるように、私たちが主の母としての聖母をたたえるためですが、聖母の被昇天が私たちに示しているのは、聖母だけに与えられた、いわゆる聖母の特権に留まるものではありません。聖母が私たちに先駆けて、その靈魂だけではなくそのおん体もともに天の栄光に挙げられたことを祝う、聖母の被昇天は、私たちが信じている、洗礼の恵みによって開かれた、主の復活のいのちに与る私たちの将来を告げるものでもあります。聖母は私たちに先駆けて、主イエス・キリストの復活によってもたらされた復活のいのちのうちに、愛するおん子イエス・キ

リストとともに天の栄光の喜びの中におられるのです。聖母がその中におられる、主イエスとともに味わう復活のいのちの喜びにあずかることこそ、私たちすべての者のこの世の生の最終目的であるのです。

聖母マリアが被昇天によって天の栄光に挙げられたのは、聖母が、聖霊によってその胎にやどり、私たちのこの地上の生の中にお生まれくださった神の子、イエス・キリストのお母さまだからです。イエスをその胸に抱き上げ、お乳を含ませ、養い育てられたからです。ヨセフとマリアの子として、成長してゆかれるイエスを、母の愛情をもって見守り続けられたからです。イエスが宣教活動に旅立って行かれた後も、母の心をもってご自分の子であるイエスのことを案じ続けておられたからです。他の誰よりも深い悲しみと嘆きのうちに、イエスの十字架の道につき従い、イエスとともにそれを父なる神の、すべての人の救いのためみ旨として受け止められたからです。イエスの母として、残された弟子たちとともに、弟子たちがイエスから受けた使命を生きることが出来るよう支え続けられたからです。このすべてを、聖母はその心と魂のすべてを挙げて、神から与えられたご自分の使命として受け入れて生きられたのです。聖母はイエスがそうであられたように、そして、私たちのすべてがそうであるように、このすべてを一人の女性として、一人の母親としてその生身の肉の体をもって生き抜かれたのです。聖母はその体をもって、神の子イエス・キリストの母であられたのです。

私たちと同じ一人の人間として、私たちと同じこの世の生のありようを生きられ、その肉のからだをもって十字架につけられ、死んで、墓に葬られ、復活されたイエス・キリストは、その復活のいのちに私たちすべての者を与らせてくださるために、死んで復活されたのです。

私たちが今日祝う聖母の被昇天は、聖母がイエスの母として、またイエスを通して私たちすべての者の母として、私たちに先駆けて、その魂も体も天の栄光に挙げられたことを祝います。イエス・キリストの復活のいのちに与った聖母マリアは、この地上に生きられた時と全く同じ、イエスの母としてその魂とからだをもって、この世のすべての悲しみと苦しみを越えて、神のみもとにおける永遠のいのちの喜びを、最愛の子イエスとともに味わっておられるのです。先にも申しましたように、天の栄光に挙げられた聖母マリアのお姿は、私たちが信仰によって信じ、希望している、私たちの最終的な将来の姿を、私たちに示しています。

私たちのからだは、今はまだ私たちの内なる魂の望みを妨げるもののように思えるかもしれませんが、肉のからだがあるから、私たちは疲れを覚え、衰えを感

じます。からだに感じる痛みへの恐れが、私たちを打ちのめします。自分のからだの要求に応じなければならぬことが、私たちが本当にすべきことをすることにためらいを感じさせます。心で悪いことだと思っけていても、肉の誘惑に負けて手を染めてしまうこともあります。

今日私たちが祝う被昇天の聖母とともに、私たちがそこに招かれているイエス・キリストの復活のいのちの豊かさの中で、今私たちが感じている自らの肉のからだの重さはすべて解き放たれ、清められて、私たちがこの地上において、からだをもって生きたすべてのことが、神の大いなる愛と憐れみのうちに、終わることのない喜びに変わるのです。イエスの母としてこの地上の生涯を生き抜かれ、天に挙げられた聖母マリアが、イエスの母として神から与られた終わることのない喜びの中におられるように、わたしたちが生きてこの地上の生活のすべては、私たちが聖母とともに味わう最終の喜びに向けた、今日の私たちの歩みであることを信仰によって受け止めなおさせていただけよう、聖母の被昇天を祝う今日のミサで、私たちすべての者の天の母なる聖母に祈り求めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高